

# 大会宣言

## 平和と民主主義を守り、子どもと教職員が笑顔で過ごせる学校をつくろう

刻々と変わる中東の情勢は、広く世界中の市民生活に不安と混乱を与えています。ロシアのウクライナ侵攻、パレスチナ・ガザ地区でのジェノサイド、アメリカとイスラエルによるイラン攻撃は、いまだ平和的な解決が見えません。今、複数の戦争が起きているなか、国を代表する者が発する言動の中には、他国に対する礼儀を失したものの、挑発的でゲーム感覚とも受け止められるものがあります。これらは相手国ばかりか、戦争の否定と平和実現のために長年活動を続けてきた市民運動をも否定するものであり強い憤りを感じます。

日本では、仮想敵国の脅威を引き合いに出しながら、防衛関係費の大幅増額、殺傷能力のある武器輸出の全面解禁、そして憲法改悪を進めようとしています。日本は、先の大戦の分析や反省を国内外に示すことなく、「平和な日本・戦争のない世界であるために武力は必要なこと」を国民に納得させようとしています。各国が互いに不信感を持ち、防衛力と攻撃力を強化する様相は核抑止論そのものであり、「諸国民の公正と信義」に基づいた真の平和ではありません。

一方で、政府の戦争を準備する動きに対して各地で反戦と平和を訴える新しい市民の行動が大きく拡がり、力強くなっていることも事実です。平和憲法をもつ日本が、人を殺す武器を他国に売るような「落ちぶれた国」であってはいけないことを多くの市民とともに訴えていきましょう。

学校では、目の前にある仕事の処理に追われ、職員室や教室で時事に関することを話題にしにくい状況があります。このことが軍事費増額に疑問を持たなかったり、「それは仕方のないこと」と考えたりなど、「日本はどうあるべきか」を深く考える機会を奪っています。かつて全ての学校で、国家のために戦争に賛同し、戦争を続けていることに疑問を持ってはいけないというまちがった教育を行った結果、多くの教え子たちのいのちを奪った痛苦の歴史を忘れず、伝え続けていかなければいけません。

貧困な教育予算のもとで、指導要領による学習内容の多さや内容の難しさ、また、全国学力テストでランキングレースを仕組まれ、テスト結果の改善・順位の向上を目指す「終わることのない努力」を教職員は強いられています。各現場では、多くの教職員がこうした働き方に疑問を持ちつつも、日々に流されているのではないのでしょうか。そうしたモヤモヤを拾い上げ、集め、大きくし、訴えていくことを目指しましょう。教職員が自らの働き方を改善し、自由な時間を取り戻しながら、理想の学校や教育のあるべき姿をイメージして教室の内外で実践を重ねていくことが、不登校など今の教育課題を改善していく最善の策であると考えます。

県教委は一部の公立高校に対して、唐突で根拠のない「適正規模」を設定し、それらの数字を理由にした再編統廃合計画の拙速な決定を強行しました。全教広島は、多くの県民の声に耳を傾けない県教委の姿勢に強く抗議するとともに、諸団体や市民と共同し、対象校の状況や関係者の思いを汲み取り、その高校が存続しなければならない意義と、計画の見直しを訴えていきます。

「教え子を再び戦場に送らない」 結成以来掲げてきた決意のもと、民主的な教育、個々の人格の完成をめざす教育を追求しながら、対話により私たちのとりくみへの共感を広げ、強く大きな全教広島をめざして奮闘しましょう。

右、宣言します。

2026年5月17日 全教広島 第41回定期大会